

アイユーゴー 通信 第13号

申し込み・問い合わせ先：アイユーゴー ～途上国の人と共に～ 事務局

住所：590-0432 大阪府泉南郡熊取町小垣内1-10-18 TEL：072-452-8340 FAX:072-452-5680 ・090-9167-7053 (新田)

振込先：[アイユーゴー ダイヒョウリジ ニッタサチオ]

ゆうちょ銀行：00980-2-71223 / 三菱東京UFJ銀行阿倍野支店：6,921,467 / 三井住友銀行佐野支店：7,260,788

e-mail：snittaskmj0715@yahoo.co.jp homepage：<http://aiyugo.fc2web.com> (設立：2001/10/15)

発行 新田 幸夫 編集長 加藤 鐘三 発行者 江口印刷

目次

- (1) アイユーゴーのパイロットプロジェクト
タイ北部の麻薬文化の終わりに向けて、
～アイユーゴー代表 新田 幸夫～
- (2) ベトナム ラムドン省カッチェン郡
農業研修センターの建設計画の調査
～アイユーゴー理事 塚田 充広～
- (3) アイユーゴー理事紹介 アイユーゴーと私
～アイユーゴー理事 小山 正博～
- (4) スタディツアーに参加して ～毛利 慎平～
- (5) 2008年度収支決算・事業報告について
- (6) 財団及び支援者・寄付者のご紹介



アイユーゴーのパイロットプロジェクト タイ北部の麻薬文化の終わりに向けて

アイユーゴー 代表 新田 幸夫

タイ北部のパイロットプロジェクト

今から40年前に、東南アジアのゴールドトライアングルについて初めて問われた。東南アジアは麻薬があり危ない国と聞かされた。2001年に、トライアングルから西へ数百キロのところにあるメーホンソンに初めて入った。そこは、タイで最も貧しい県であり、ミャンマーとの国境に接しており、ミャンマーの紛争を逃れて来た少数民族(リス族、ラフ族、カレン族など)それぞれの集落を作り、トウモロコシ、ゴマや米づくりでなんとか生計を立てて暮らしていた。



パンマパー地区のムアンバン村の村長が、タイの王室財団がこの地区に小学校から高校生までの全寮制の学校を作ることになっていると話した。子供たちを麻薬文化から守るためだと言う。村人のほとんど



は、麻薬を使った経験があると言っていた。山仕事をしている最中に大怪我をして痛み止めとして使った中年男性、出産後に病気を患いその痛みには耐えられずに手を出した若い婦人、そして麻薬

中毒者で酒を飲み巡査を殺害して刑務所に入っている夫がいると話した中年の女性たち。さらに、麻薬の総元締め2人が逮捕されたこと、チェンマイポストの一面に写真付きで報じられたこともあった。2人ともこの地区の人だった。

村人たちの自立

ムアンバン村の近くにある「米作研究センター」で働いていたソムヨツツ氏や、現在パンマパー地区の議員をしているスティップ氏が中心になり、麻薬文化の犠牲者をなくそうとして新たな村作りを考え始めた。彼らは、自分たち農民は農業に従事してこそ自立への道が開けると考え、その象徴として農業支援センターを建設するためにアイユーゴーに協力を求めた。2002年のことだった。



土地を大切に(有機農法)

以来、ソムヨツツ氏の肺炎による入院や、スティップ氏のガンの戦いもあったが、彼らは今でもこのセンターを守り続けている。センターにはパイロットファーム、5つの貯水タンク、宿泊施設ができ、そして、農業をしようと言った38村の仲間たちが、有機肥料の作り方を学びにやって来る。ソムヨツツ氏は、化学薬品を使わないで、徹底した有機農法を取り、土地を大切にしている。もし、土地がだめになれば、農民はまた麻薬をしていることになると言った。土地を大切にするとは、自分たちの生活を大事にすることだとも言っている。農地の穢れ(けがれ)は、自分たちの



罪のせいだと考える。

彼らと共に (今後の取り組み)

小生は、彼らと共に活動をしながら、いつも彼らから教えられている。現在少しゆとりが出てきたソムヨツ氏は小生とともにラオスの事業地に入り、ゴムの植栽などの指導を手伝ってくれている。彼らと共に新しいネットワークができた。

ベトナム ラムドン省 カッティエン郡 農業センター候補地視察

アイユーゴー理事 塚田 充広

4月17日より20日まで、ベトナム ラムドン省カッティエン郡の農業センター候補地の関係スタッフの確認ならびに候補地の視察に行ってきました。相変わらずのホーチミンのバイクの大群をほほえましく思いつつ、Mr. Quan と日本から同行の山本武彦君と共に18日朝ホーチミンを離れ車で候補地まで…約4時間の道程でした。途中で食べた食事は本当に美味しかった…(タイ・ラオス・ベトナムと訪問しましたが、ベトナムの食事が一番口に合います。スタディツアーするならベトナムが一番!?) 現地では、郡長、郡事務所秘書官、農業センター長、をはじめ関係者と顔合わせ、その後候補地の Phouc Cat 村へ視察しました。



案内された候補地は、以前の農業センター跡地から10kmほど高地に移動していました。理由を尋ねると「カッティエン郡は以前から水害に悩まされることが多く、前の場所では過去に水没したことがあるため、過去に水没をしていない場所である当地を選定した」とのこと。約2000坪の候補地は、アクセス道路が整備されれば非常に好条件だと感じられました。その後懇談した際に、日本人の若者を連れてスタディツアーに来たいと思うが、この地で観光できるような場所はあるのか?とたずねたところ翌日案内してくれるとのこと、その夜はゲストハウスで蚊帳に守られて就寝しました。

翌日は、最近発見された遺跡に案内されました。非常に大きな遺跡で、これから学術調査をきちんと行い、それから一般に公開するとのことですが、日本人が来るならこちらへ案内したいとのことでした。ただ研修地で現地の生活を体験するだけでなく、少し観光気分があっても良いのかなあと感じますので、次回企画するときをお楽しみに…(9月に実施します)

ラオスやタイのセンターと比べても、周囲には様々な作物が栽培され、現在米しか作っていない現地には大きな可能性があると感じた農業センター候補地視察でした。



アイユーゴー理事紹介・「アイユーゴーと私」

アイユーゴー理事 小山 正博

以前にNICCO と言う NGO に新田さんが在籍されておりましたが、その時に新田さんと知り合う機会を得、一緒に活動しておりました。新田代表が新たに「アイユーゴー」を立ち上げるので協力して欲しいとお誘いを受け、設立時より「アイユーゴー」に在席させて戴いております。40歳で京都青年会議所を卒業し、3月から京都洛西ロータリークラブの会員になり、奉仕と言う事に少しは携わってまいりました。ロータリーに入会后、「椎間板ヘルニア」「脳虚血症」「総胆管結石」「狭心症」「糖尿病」を患いました。病気をした事により、人の苦しみと痛みを知り、神戸の大震災により「他人の苦しみと痛み」を知り、又、ボランティアの人々の活動を知る事ができました。私は、それにより「思いやりの心」を今まで以上に感得する事が出来ました。皆様により生かされている私は、「思いやりの心」を持って善意の種を少しずつでも蒔き続けたいと思っております。



スタディツアーを振り返って

毛利 慎平

今回のスタディツアーは僕にとって初体験だらけでした。初海外で初ホームステイの初国際事業活動…いろんなお初が、ゆっくり考える間もなくどんどん押し寄せてくる感じでした。そのひとつひとつは、今でも自分の中に確実に残っていて、これからの生き方に非常に影響しそうです。それくらい素晴らしい旅だったと思います。

最初に団長の加藤氏からお話を頂いた時は、なんとなく海外に行ってみたいなあぐらいにしか、頭が回っていませんでした。それから何度か準備や打ち合わせを重ねる内に、なんか軽い気持ちでいることにちょっとした嫌悪感をおぼえるようになりました。自分がこのスタディツアーをどうとらえているのか?何か貢献出来る事があるのだろうか?と不安になっていきました。役割としては現地の村の子供たちとの交流の為に、バルーンアートを披露する事になっていて、成功に向けて練習したりしたけど、事業の目的やアイユーゴーの活動をあまり理解できていないままでした。結局何の為に誰の為に参加したのかわからないまま出発の日を迎えました。

着いてからは、出発前の不安は徐々に払拭されていきました。現地では見た事のない景色や文化を見て、聞いた事のない虫や人の声を聞き、しゃべったことのない言語で会話をし、嗅いだ事のない匂いの料理を食べて、今までと違う空気を肌で感じました。こういう体験というのはまず感覚から入るので、アレコレ考えていても仕方がないみたいで、何だかわからないものでも、とりあ



えずやってみるといのは悪くないなあと感じるようになりました。滞在中は自分の好奇心のままに動いていたように思います。

この旅での経験は自分にとってかけがえのない財産になると思います。まだまだ国際事業やボランティアというのはよく分かっていませんが、考えるキッカケを与えてくれたアイユゴーには感謝の気持ちでいっぱいです。これからも多くの人に海外での体験のチャンスを提供していただきたいと思います。



2008年度収支決算・事業報告について

平成21年5月31日 京都にて21年度総会が行われ、2008年度決算報告・事業報告について承認されましたので、ご報告いたします。

2008年度収支決算 (平成20年4月1日～平成21年3月31日)	
科 目	決算額 (単位 円)
1. 会費収入	608,000
2. 寄付金収入	1,042,514
3. 助成金収入	4,040,000
4. 自主事業収入	1,277,242
5. 雑収入	450
6. 繰越金	1,215,309
7. 未収入金	425,000
収入合計 (A)	8,608,515
I 事業費	
1. 資機材費	4,433,332
2. 現地事業運営費	344,632
3. 現地スタッフ経費	759,170
4. スタッフ・専門家派遣経費	1,585,672
5. コーディネーター費	10,064
6. 事前調査費	0
7. 現地管理費	152,000
8. 国内事業費	1,075
事業費小計	7,285,945
II 事務管理費	
1. 事務所管理費	462,094
2. 交通費	219,760
3. 宿泊費	37,941
4. 食事費	0
5. 協力費	0
6. 会議費	35,060
事務管理費小計	754,855
支出合計 (B)	8,040,800

2008年度事業報告

(平成20年4月1日～平成21年3月31日)

(1) 教育支援プロジェクト

- (i) 少数民族の小学校に図書館建設 (タイ・メーホンソン県)
 <ひろしま・祈りの石国際教育交流財団様による助成>

(2) 農業地域開発プロジェクト

- (i) ラオス中南部における農民の自立支援と森林保護のための農村開発 (ラオス・サバナケート県サイフォウホン地区)
 <地球環境基金様による助成>

- (ii) ラオス中南部におけるパイロットファーム建設と井戸建設ならびに道路補修工事
 (ラオス・サバナケート県サイフォウホン地区)
 * 緑の募金へ申請中。

- (iii) タイ北部山岳民族のパイロットファームの保護のためのフェンス設置、農業実施指導のための農具と資材(マンゴ、コーヒー、ニームの苗木)の購入 (タイ・メーホンソン県)
 * コーヒー等資材購入は緑の募金様による事業。
 * パイロットファームの保護のためのフェンス設置等は国際ボランティア貯金様による2009年度事業に決定。

- (iv) ベトナムの農民のための農業支援センターとグリーンハウスの建設及び運営指導、有機栽培・衛生講習の実施 (ベトナム・ラムドン県)
 * 国際ボランティア貯金様による2009年度事業に決定。

- (v) マダガスカルでの環境保全のための植林と農業支援 (マダガスカル)
 * 国際ボランティア貯金様による2009年度事業に決定。

(3) 神戸大学大学院保健学研究科との共同事業

- 保健医療と社会福祉の4カ国合同セミナー
 (ベトナム・ラムドン県)
 <三菱UFJ国際財団様による助成>

(4) 日本の国際協力事業へのアドバイザーとしての参画

- (ラオス・フォーホ県) 東広島JC様によるGTSへの参画

(5) 自主事業 (ワークキャンプ)

- 本会での事業現場で、村人と文化・技術の交換を通じた交流。
 1) ベトナムのダラット大学学生と少数民族の自立支援のためのジョイントワークキャンプ。<2008年12月>
 2) タイ北部の少数民族との文化交流 (図書館建設現場にて) (タイ・メーホンソン県) <2009年2月>
 3) ラオスにおける農業センターでの指導と食文化交流 (ラオス・サバナケート県) <2008年8月>
 4) 「コーヒー基金事業」
 5) その他

財団及び支援者・寄付者のご紹介

アイユゴーの活動に対し、ご理解とご支援を頂いています財団及び支援者・寄付者に対し、改めて心から感謝を申しあげまして、ご紹介させていただきます。(ご紹介させていただきます団体以外にも、多くの団体等からご支援・ご協力を頂いています。今回ご紹介できない事に対して、お詫び申し上げますと共に、日頃のご理解に対して改めてお礼申し上げます。)

三菱UFJ国際財団

三菱UFJ国際財団は、日本とアジア諸国をはじめとする世界各国との国際親善及び世界平和の推進に寄与する目的として、人材育成事業・国際交流事業・調査研究助成事業など多方面にわたり、様々な支援が行われています。



アイユゴーでは、同財団の全面的なご支援を頂き、ベトナムのダラット大学にて、「保健と福祉に関する4カ国合同セミナー」を開催しました。チーム医療、チームケア、チーム支援に携わる様々な職種の人達が一室に集い、それぞれの国や地域、職域の現状報告と討議を通して互いに相手をよく知り、国境を越えて理解しあう事ができました。

地球環境基金

地球環境基金は、地球の温暖化、オゾン層の破壊、酸性雨、生物多様性の減少や廃棄物の処理等、ますます複雑・多様化する今日の環境問題に的確に対処していくためには、国や地方自治体、企業はもとより、民間団体(NGO/NPO)、すなわち国民一人ひとりの主体的な取り組みが不可欠となっています。



こうした観点から、民間団体による環境保全活動を支援するため、1993(平成5)年5月、環境事業団(現在の独立行政法人環境再生保全機構)に「地球環境基金」が創設されました。

アイユゴーでは、地球環境基金からのご協力により、ラオス中南部における農民の自立支援と森林保護のための農村開発の事業を行う事が出来ました。有難うございました。

緑の募金

緑の募金は、森林はわたしたちの排出する二酸化炭素を吸収することで地球温暖化を防いでくれます。森林の力強く根を張り緑の葉をそよがせる木々は、水を育み、実りをたたえ、多くの生物たちのいのちを支えます。森林で育まれた水は、多くのミネラルを含み川そして海に生きるいのちを支えます。森林の営みはめぐりめぐって、わたしたちが生きる地球のいのちを守ります。地球上に生きるたくさんの生物は、森林を中心にバランスをとりながら生態系を保っています。緑の募金は地球温暖化を防ぎ、地球上に生きるわたしたちのいのちのコミュニティである豊かな森林を支えるために役立っています。



アイユゴーでは、タイ北部、メーホーソン県パンマパー郡において、少数民族の生活環境を守るための森林保護事業等にご協力を頂いています。

ひろしま・祈りの石国際教育交流財団

ひろしま・祈りの石国際教育交流財団は、途上国の恵まれない子ども達がひとしく教育を受けられる環境を築くため、

必要な資金支援を行っている公益法人です。途上国において活発に活動している内外のNGO・ボランティア団体に対し独自の助成プログラムを提供するとともに、財団のこうした事業をご理解して下さる皆さまに賛助会員としてのご参加ご支援をお願いしています。



アイユゴーではタイ北部メーホソン県において、教育支援プログラム事業等にご協力頂いています。

(財) ゆうちよ財団・国際ボランティア貯金

(財) ゆうちよ財団では、国民の皆さまの真心の結晶である「国際ボランティア貯金」の寄附金を海外で活動する民間海外援助団体(NGO)に対する支援活動のほか、「国際ボランティア貯金」が、開発途上地域の人々の福祉の向上にどのように役立てられているかを、幅広く紹介しています。アイユゴーでは、タイ北部山岳地帯、ミャンマー国境に近い農村で、少数民族の生活の向上と自立をめざした、農業技術指導などの事業にご協力頂いています。グローバール48号(平成18年7月発行)



2008年度会費によるご協力者

2008年度年会費の協力ありがとうございました。(敬称略)

京都府	兼子 千雅子	兵庫県	筧 壽雄	大阪府	中原 正純
大阪府	川添 登志子	愛知県	北原 真弓	広島県	新田 トミ子
大阪府	小阪 和子	兵庫県	久保 幹男	福井県	加賀 正弘
静岡県	永田 修久	大阪府	梶山 尚文	兵庫県	講武 芳英
岡山県	蛭川 清隆	広島県	粟屋 章二	岡山県	中西 省吾
和歌山県	白川 泰旭	奈良県	北谷 成人	大阪府	中務 智
京都府	小山 正博	大阪府	栗原 由紀子	大阪府	新田 幸夫
大阪府	新田 香織	大阪府	岩見 和孝	大阪府	岩見 真理子
愛知県	青木 俊市	千葉県	小阪 優友	京都府	上村 芳蔵
東京都	秋本 智子	愛知県	鶴巢 慎一	京都府	各務 宇春
兵庫県	三木 明德	岡山県	粟屋 三男	愛知県	大島 博陸
静岡県	山本 武彦	大阪府	月山 みね子	大阪府	森川 嘉夫
兵庫県	米谷 啓和	大阪府	高橋 進	大阪府	高橋 美千代
大阪府	中家 武喜	島根県	林 陽一	静岡県	西原 明美
島根県	金子 俊之	大阪府	大槻 泰士	岡山県	小林 祐昌
大阪府	中村 実加	愛知県	高梨 芳生	大阪府	吉澤 七恵
静岡県	塚田 充広	愛知県	大原 泰昭	大阪府	中 好子
大阪府	野田剛弘	愛知県	加藤 鐘三		
大阪府	医) 正生会のだ皮ふ科	岡山県		(株) 中西工業所	

【感謝】

アイユゴー通信をご覧いただきまして、誠にありがとうございます。アイユゴーは、自らの知識・技術・経験と奉仕の精神を持って、協力を必要とする人たちの自立を目指した開発援助を通じて、その地の文化を尊重理解し、草の根の友好親善と、自らの人間としての価値を高めることを目的とし活動します。貧しい人たち、困った人たちがいれば、その人たちのそばに行ってみませんか。そして何かできることがあれば、自分で試してみませんか。皆様のご参加・ご協力を心からお待ちしております。

e-mail : snittaskmj0715@yahoo.co.jp homepage: <http://aiyugo.fc2web.com>